



名城大学 第24回 FD・SD フォーラム

テーマ：データサイエンス教育の現状と展望

日時：2023年1月13日(金) 10:00～12:00

開催方法：ZOOM によるオンライン

【企画概要】

目指していく未来社会として Society5.0 が提示されるなど、近年の社会変化を受けて、データサイエンスに関する知識・技能が社会人として必要とされるようになり、データサイエンティストの育成に取り組む大学も増加している。

今回の FD・SD フォーラムでは、データサイエンス及びデータサイエンス教育の重要性を学ぶことを目的に、滋賀大学が展開している大学教育や、本学のデータサイエンス教育の現状を紹介する。



基調講演

「データサイエンス教育の現状と展望」

竹村 彰通 先生 (国立大学法人 滋賀大学 学長)



事例報告

「名城大学における『データサイエンス・AI 入門』」

勝浦 正樹 先生 (名城大学 経済学部 教授、キャリアセンター長)

【申込方法】 (定員：300名)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_UptSbfcXSZOmCnw2z9747Q



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL : 052-838-2033 (内線 : 2659)

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

第24回FD・SDフォーラム企画 「データサイエンス教育の現状と展望」

1. 実施概要

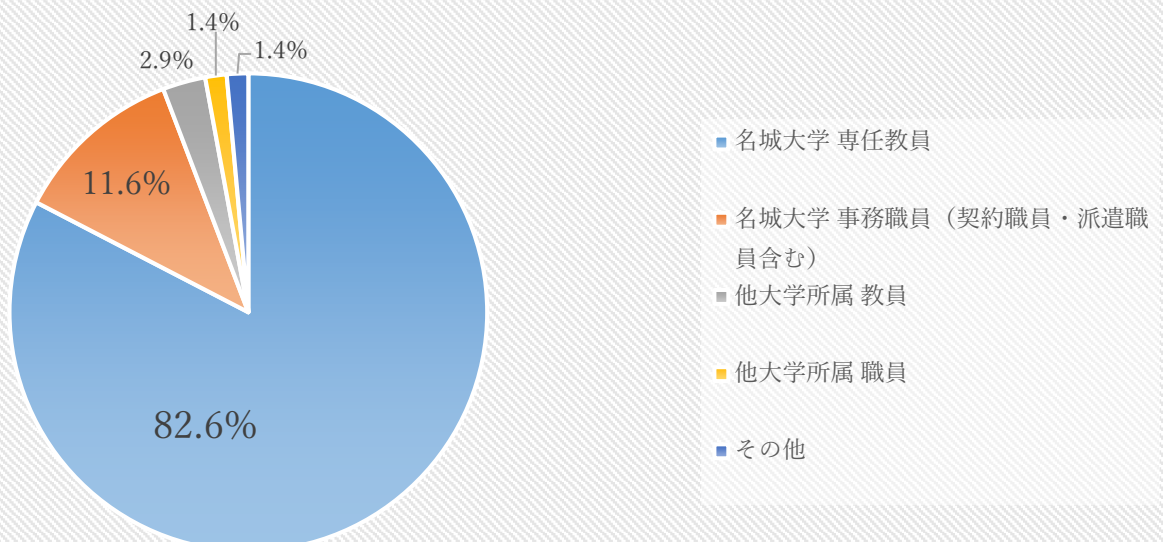
- 日 時：令和5年1月13日（金）10：00～12：00
- 場 所：Zoomによるオンライン開催
- 基調講演 テーマ：データサイエンス教育の現状と展望
- 基調講演 講師：竹村 彰通 先生（国立大学法人 滋賀大学 学長）
- 事例報告 テーマ：名城大学における「データサイエンス・AI 入門」
- 事例報告 講師：勝浦 正樹 先生（名城大学 経済学部 教授、キャリアセンター長）
- 参加者数：143人
（本学専任教員100人、本学事務職員21人、他大学教職員16人、その他6人）

2. アンケート方法等

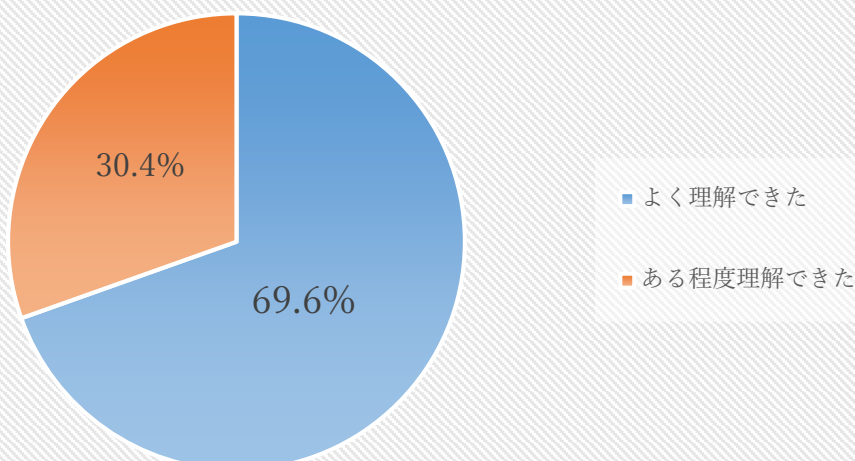
- アンケート方法：Google フォーム
- 質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください
 - ②基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の内容は、理解できましたか？
 - ③基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の満足度について教えてください。
 - ④基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑤事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI 入門』」の内容は、理解できましたか？
 - ⑥事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI 入門』」の満足度について教えてください。
 - ⑦事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI 入門』」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください
- 回答者人数：70名
- 質問④、⑦、⑧について主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

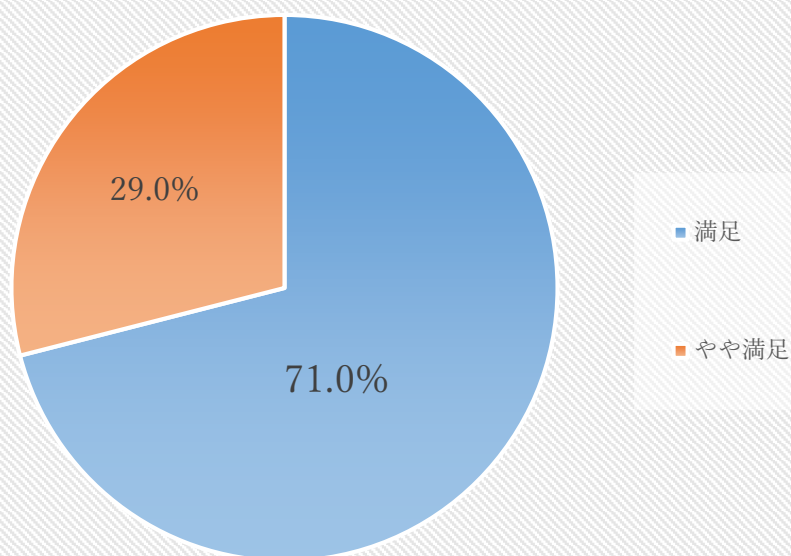
①所属をお知らせください。



②基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の内容は、理解できましたか？



③基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の満足度について教えてください

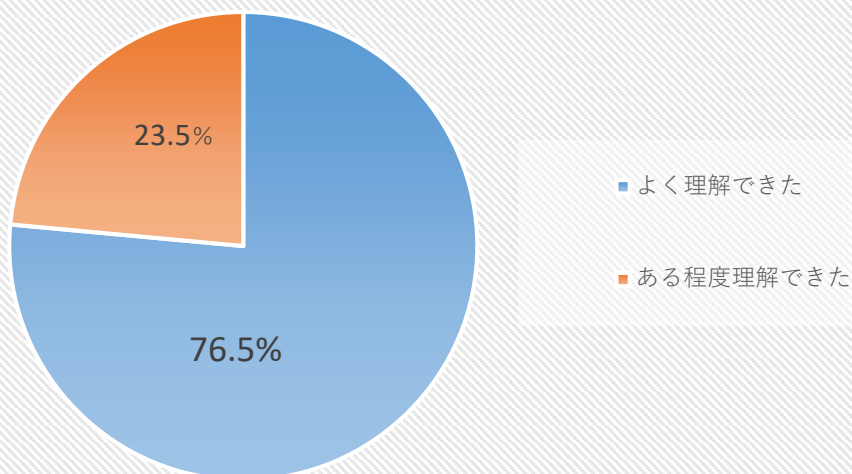


④基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

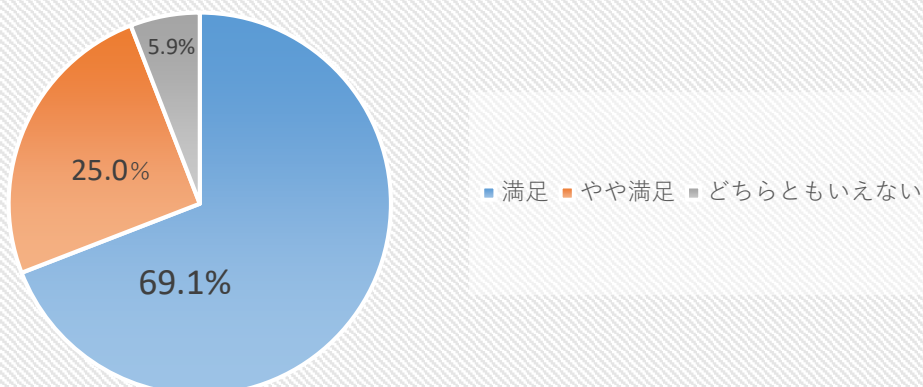
- ・ 課題としての持続可能性
- ・ 直接内容とは関係ないかもしれませんが、やはりこういった科目も含めて全学共通教育を復活させるべきでは？と感じました。
- ・ サービスサイエンス教育の立ち上げにご苦労されたことについて感銘を受けました。
- ・ データサイエンス教育から就職までの流れが理解できた。
- ・ （本当に必要か疑問を感じた点で）高校での情報科目導入について

- ・ 企業とのコラボレーションによる問題解決型授業
- ・ 企業など、外部との連携・協力
- ・ 企業連携による実際のデータを用いた PBL 教育
- ・ 我が国におけるデータサイエンス教育環境の整備が他国に比べて遅れていることに改めて危機感を持ちました。
- ・ データサイエンス教育の出口戦略とその評価。企業との関係について。
- ・ 価値の発見・創造の教育をどのように実現していくか
- ・ はじめの方のデータサイエンスの流れで、文系要素も必要なこと
- ・ 世の中の現状と、他大学の取り組みの動向を把握できました。
- ・ 価値創造へとつなげる戦略
- ・ 滋賀大学の卒業後の進路について、大変興味深く見せていただきました。企業側には、データサイエンティストを内製化する準備が整っていないところが多く、データサイエンスを専門とする企業を育成し、企業のコンサルテーションを請け負う、という形が日本には合っているのかな、という印象を受けました。
- ・ データサイエンスの 3 要素、特に価値創造教育のための実際のデータを用いた取り組みの重要性が分かりました。
- ・ 情報センターとして必要なサポートがあるか確認したかったため
- ・ 国外や学外におけるデータサイエンス教育の現状を詳しく伺えたこと。
- ・ データをどのようにビジネスに生かすかを考える部分の学問的サポートが不足していると感じた
- ・ 全国的な取り組み状況と担当教員数のアンバランス
- ・ 一般的な講義と異なり、まずは学生自身が理論的な面からではなく、何が出来てかを体験することで科目や学問の重要性を理解し、興味が増すことが出来るのではないかと感じた。
- ・ 竹村先生のご報告のスライド番号 25 番と 26 番で、実際のデータを取得するために連携協力先を多数開拓をされた点です。比較的、日系企業が多い印象でしたが、そのなかで、レノボジャパンの例が出されておりました。国外の実際のデータを取得する意義がなにかあればお教えいただけますと幸いです。また、そのようなデータ入手に際してのご苦労なども、ございましたらご教授いただけませんか？どうぞ宜しくお願い致します。本日スマートフォンで参加したため、時間内にうまく質問を送れず申し訳ございませんでした。
- ・ データサイエンス教育の中に「価値創造」が含まれること。
- ・ 認定制度とは別に、具体的な統計・AI スキルの設定などを他大学ではどのように行っているのか気になりました。
- ・ 政府のデジタル化推進の下、その活用が必要なことを教育にももっと落とし込んでいくことが重要な要素になることを痛感した。また、社会（産学）連携の今後の主要なテーマにもなりうる予兆を見た。
- ・ データサイエンティスト育成モデル
- ・ データサイエンス学部卒業生の就職先
- ・ 技術の進化で利便性が高まるとともに、常に新しい知識は必要となります。

⑤事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」の内容は、理解できましたか？



⑥事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」の満足度について教えてください



⑦事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

- ・全学部の教員の参加
- ・全学的に導入する意義は理解できたが、統計学の講義についてこれだけの時間割で可能かどうか疑問に思った。
- ・本学での全学共通教育の実現に大変ご苦労されたことがわかった。
- ・取り組みに対する苦労した点の紹介
- ・(担当者が多いことによる調整の大変さが滲み出ている) 実施方法について

- ・ 本学のデータサイエンス教育について知ることができました
- ・ 担当者の確保と適切な講義内容の選定が重要と感じました。関連技術の進展が早いため、最新の内容を取り入れて毎年どんどん改変していく必要があるのでは、と考えます。
- ・ 学生のアクセス時間が金曜日の 22:00 が一番多く、期日ギリギリに勉強しているので、ここら辺の意識の変化をどのように促すかがポイントと思いました。
- ・ 今後の展開
- ・ オンライン試験の方法、点検・評価の方法
- ・ 外部評価委員の意見
- ・ 文系学生の履修状況やデータサイエンスへの関心・意欲
- ・ 今回の講演に直接関係することではないですが、『データサイエンス・AI 入門』においてどのような講義を実施しているのか大変興味がありますので、教員も聴講させていただけますと幸いです。
- ・ 科目担当者 WG でもご報告をいただいていたのですが、改めて科目内容や実施結果についてお聞きすることができました。内容についても大変分かりやすかったです。
- ・ 現在の取り組みの状況と課題について、具体的に知ることができました。
- ・ 実施方法
- ・ CBT 試験実施方法の問題点の解決
- ・ キャリアセンター職員です。実は企業様から本学のデータサイエンス系教育はどうなっているかと聞かれたことがあります。今回学部別の履修者や内容を教えていただいたことでお話ししやすく、また、本学をよりアピールできると感じました。ありがとうございました。
- ・ 学生が習得する基礎の内容、オンライン課題の評価方法
- ・ 定期試験と成績評価
- ・ 定期試験で、2 回まで受験できるとのことでしたが、評価としては、高いほうを採用するという事なのではないでしょうか？
- ・ 具体的な取り組みのご紹介で、リテラシーレベルでの教育が進んでいることが良く分かりました。全学的な取り組みを進める上でご苦労されていることも十分に伝わったと思います。
- ・ 学習の取組み状況の確認
- ・ 学生のアンケート結果に対して様々な角度で分析されており、自身で取り組んでいる科目や学生参加プロジェクトで実施しているアンケートにも適用できると感じ、各教員が様々な機会にデータ分析をする機会を増やすことも、本学の『データサイエンス・AI』に対する取組を活性化することに寄与すると考えられます。
- ・ 「データサイエンス・AI 入門」の継続性の担保、データサイエンス応用基礎科目の全学設置について、全学理解を進める必要があると感じました。
- ・ 今期実施された授業の詳細を知ることができたこと。特に、受講生の反応を伺えたことは、とても良かったです。
- ・ 『データサイエンス・AI 入門』への学生の動機づけ（とくに文系学部）
- ・ かなり厳格に授業が構成されているので教員負担が高くなっており、今後の拡張に支障がある気がした。
- ・ 学部横断的な取り組み
- ・ 講義の中で実践的な内容がどの程度盛り込まれていたかなど、わからない点があったので、その点の情報があると、学生にも周知する際に良いと感じました。
- ・ 入試の際の数学選択の有無が、この科目の学習成果に影響するか否か、気になりました。
- ・ 全学部にあたるコンテンツ（価値創造）が含まれていること。
- ・ 成績評価をはじめ、授業として成り立たせるための様々な工夫点をお話し頂き、大変勉強になりました。
- ・ 学部を超え、多数の教員がコンテンツづくりに関わる本学に不足する FD の形として、ようやくひとつの事例ができた点。また、数は少なくとも、全学共通の科目を設けることの意義を理解した。

⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください

- ・ 滋賀大学の学長、勝浦センター長の話が分かりやすく勉強になりました。
- ・ 大変ご苦勞さまでございました。とてもよい企画だったと思います。
- ・ 企業が求める大学の在り方、教育など
- ・ サービスサイエンス教育を広く認知する上で、良い機会であったと思う。
- ・ 企業側がデータサイエンス教育に何を期待しているのか？という実例が紹介されるとよいのかな？と考えております。
- ・ 全学共通科目としての実施に当たっての担当者の努力に頭が下がる思いです。また、内容選定等種々の調整の大変さが伝わりました。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 非常に興味深く、参考になりました。
- ・ 非常に参考になりました。もし可能であればですが、データサイエンス関連科目を履修した文系学生の感想を詳しく知ることができれば幸いです。
- ・ タイムリーな企画で、内容もとても良かったと思います。
- ・ この科目に関する、本学の教職員の方々の御意見・御感想に関心があります。
- ・ 全般的に、データサイエンス教育の重要性が理解しやすいご講演だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 個人的な疑問です。データサイエンス・AI 入門を全学教育にするならば、IT・情報・コンピュータリテラシーが必須科目となる必要があると思いますが・・・
- ・ 現在『データサイエンス・AI 入門』をご担当されている文系学部・理系学部の先生方からも、実践している具体的な内容や本科目に対する所感などを聞ける機会があると、全学的に本科目への理解や協力体制が強化されると感じました。
- ・ 欧米で実績をあげている社会人となってからビジネスに役立つ教育法などの紹介などあれば聞いてみたい
- ・ 応用版として、各学部のニーズに合った講義を展開できると、満足度がさらに高まるのではと感じました
- ・ 非常に興味深く聞かせていただきました。
- ・ 『データサイエンス・AI 入門』の教育プログラムが全学体制で良くできていると思いました。なお、適用事例については、なるべく最新の話題を盛り込めるよう、2～3年で更新するとよいのではないかと思います。
- ・ データサイエンス・AI の取り組みについて関係者の皆様の様々なご尽力、あらためて感謝申し上げます。
- ・ 勝浦教授の最終版の資料を頂戴したいです。
- ・ 貴重なお話を拝聴させていただき、感謝申し上げます。

以上